

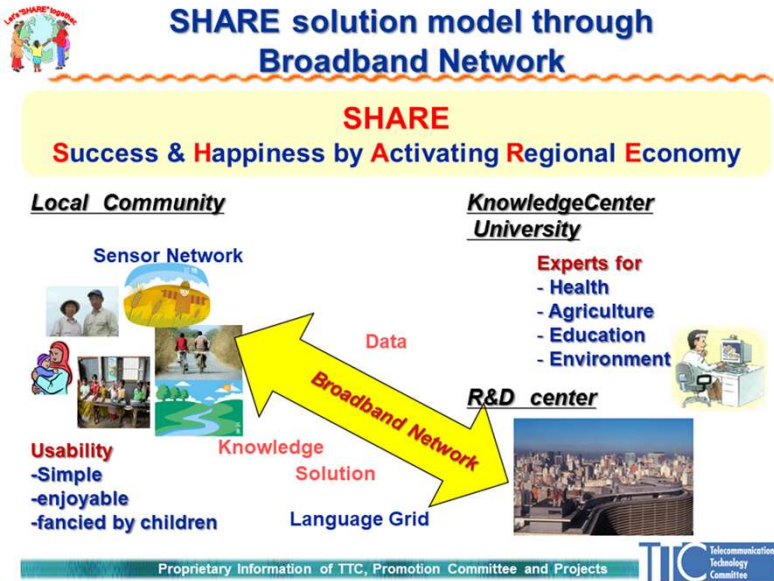
中期標準化戦略（概要と目的）		専門委員会・AG名	BSG専門委員会	1/3
企画戦略委員	原 美永子（NTT）	登録委員数	4	
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：山本 秀樹（OKI）／ 副委員長： 山本 浩司（NTT）	図解		
活動の目的・意義	日本と東南アジア諸国との交流は、1980年代に政府を中心に強化されたが、昨今日本のGDP(国内総生産)の世界に占める割合の低下(30年前の18%が2023年は4%)や東南アジア諸国の成長に伴い、関係性は薄くなっている。 標準化の世界的なトレンドとして標準をビジネスにつなげていくため、従来の性能・機能・方式の標準でなく、社会課題を解決するシステム・サービス・ソリューション丸ごとの標準が求められている。日本は、ITU-T局長やSG議長1名、副議長6名、TSAG副議長1名を輩出し東南アジア諸国に関し標準化の面で豊富な知識・ノウハウを有している。 そこで、日本企業としては、標準化を利用し、アジア新興国との関係を強化し、市場開拓につなげる戦略が重要になる。このような認識の基に、①アジア新興国の社会課題を解決するICTソリューション実証実験結果をICT分野別に体系化し、②実施ノウハウを共有化する導入ガイドライン(ソリューション利用標準)を策定し、③推進に必要な連携構築や、ビジネス展開につながるプロモーション活動等を持続的に推進する。	 The diagram illustrates the SHARE solution model through a Broadband Network. It shows a central 'Broadband Network' (yellow arrow) connecting 'Local Community' (left) and 'Knowledge Center University' (right). The 'Local Community' includes a 'Sensor Network' and 'Usability' (Simple, enjoyable, fancied by children). The 'Knowledge Center University' includes 'Experts for' (Health, Agriculture, Education, Environment) and an 'R&D center'. A 'Language Grid' is also shown. The bottom text reads: 'Proprietary Information of TTC, Promotion Committee and Projects'.		
活動する上での課題 (人材面や運用面での課題を含む)	委員増 / 日本製品が絡む新規プロジェクトの創出 / 国外パートナー・人脈の維持、開拓			
関連のSDGsゴール	  			
標準化方針	[アップストリーム活動] ・ソリューション利用標準であるASTAP文書（APT Report）の「ICTソリューションハンドブック」を、各国の要望を盛り込みながら改訂提案を継続する。 [TTCDキュメント制定] ・上記「ICTソリューションハンドブック」はTTC技術レポート(TR)として文書化し、新興国ビジネス開拓に向けた利用標準として活用する。			
国内外の標準化団体等の動向	- 世界電気通信標準化会議（WTSA-12）において、Resolution 44 “Bridging the standardization gap between developing and developed countries” の改訂が議論され、ITU-T各SGに対して途上国が置かれた特有な状況に配慮して標準化を適切に進めるよう指示することが新たに盛り込まれた。 - WTSA-24（2024年10月）でも本決議は改訂され、継続された。 - ITU-T尾上局長の公約に、BSG解消が上がっており、ITU-TでもBSGを促進中。			

用語

1: ASTAP: Asia-Pacific Telecommunity Standardization Program Forum

2: EG BSG: Expert Group on Bridging the Standardization Gap

3: SHAREミーティング: “Success & Happiness by Activating Regional Economy” を合言葉にしたアジア各国(インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム)の通信主管庁・大学関係者等との連絡会組織。各国にて農業・水産業・教育・医療・環境等に関するICTソリューション導入パイロットプロジェクト等を実施



用語

- 1: ASTAP: Asia-Pacific Telecommunity Standardization Program Forum
- 2: EG BSG: Expert Group on Bridging the Standardization Gap
- 3: SHAREミーティング: “Success & Happiness by Activating Regional Economy” を合言葉にしたアジア各国(インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム)の通信主管庁・大学関係者等との連絡会組織。各国にて農業・水産業・教育・医療・環境等に関するICTソリューション導入パイロットプロジェクト等を実施

中期標準化戦略（2024年度重点取り組みと活動報告）

中期標準化戦略（2024年度重点取り組みと活動報告）			専門委員会・AG名	BSG専門委員会	3/3
新テーマ及び重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	① 農業・観光・健康管理などの地域課題を解決するICTソリューションを提案することを目的とするアイデアソンを実施 ② 産学官連携プロジェクトを利用した日本のICT技術の新興国普及のためのビジネスモデル形成およびステークスホルダー育成の推進 ③ 産学官連携プロジェクト成果によるAPTレポート「ICTソリューションハンドブック」の改定を継続。改定内容はTTC技術レポートに反映 ④ 新興国の人々とICTエキスパートとの間の知識の橋渡しに焦点を当てたケーススタディのワークショップ・研修を開催 ⑤ 日本も含めたアジア太平洋地域の標準化人材育成のためのワークショップ・研修を開催 ⑥ 過去のパイロットプロジェクトサイトでの異業種間データを共有するプラットフォームを維持管理(マレーシアと連携)、新IoTシステム検討				
関連する専門委員会または外部組織とそ の内容	- 関連専門委員会:新規プロジェクトの内容により、個別に相談 - 外部組織: APT、マレーシアMTSFB、タイNBTC、SHAREメンバー --- 標準化提案・プロジェクト・ワークショップ・アイデアソンの検討・実施				
主な活動項目	概況指標	2024年度目標(当初計画時)	2024年度実施状況	記事	
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	1件 ・ASTAP EG BSG(2024年5月予定) - ICTソリューションハンドブック改定提案(マレーシアのケース追加)	1件 ・ASTAP EG BSG(2024年5月開催) - ICTソリューションハンドブック改定提案(マレーシアのケース追加)	項番は、重点 取組の番号 を示す	
	外部会合への 参加・連携状況	① アイデアソン開催: 1回 ②-1. APTプロジェクト「マレーシアの医療プロジェクト第2段階」参画 ②-2. 新APTプロジェクト提案の検討 ③. ASTAP: 1回 (2024年5月予定) ④⑤. 研修またはワークショップ: 2回 ①～⑥. SHAREミーティング: 1回	① アイデアソン開催: 1回(11/23,24 タイ カセサート大) ②-1. APTプロジェクト「マレーシアの医療プロジェクト第2段階」提案し、APTの返事待ち。 ②-2. なし ③. ASTAP: 1回 (2024年5月出席) ④⑤. 研修またはワークショップ: 2回 (第1回目 12/9-13、第2回目 2/3-7) ①～⑥. SHAREミーティング: 0回		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件	0件		
	TS/TR/SR	0件 / 1件 / 0件 - TR: ICTソリューションハンドブック改定 (マレーシアでのケース追加)	0件/1件/0件 ・TR-1058 第6版 2024/4/12制定		
③ ダウンストリーム	数	TS制定: 0件 TR制定: 0件	TS制定: 0件 TR制定: 0件		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	・TTCセミナー 1回	セミナー 0回		
	記事投稿、講演会	・TTCレポート記事: イベント毎に報告	TTCレポート記事 2件 ASTAP報告／アイデアソン		

中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動予定）			専門委員会・AG名	BSG専門委員会	3/3
新テーマ及び重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	① 農業・観光・健康管理などの地域課題を解決するICTソリューションを提案することを目的とするアイデアソンの実施を検討 ② 産学官連携プロジェクトを利用した日本のICT技術の新興国普及のためのビジネスモデル形成およびステークスホルダー育成の推進 ③ 産学官連携プロジェクト成果によるAPTレポート「ICTソリューションハンドブック」の改定を継続。改定内容はTTC技術レポートに反映 ④ 新興国の人々とICTエキスパートとの間の知識の橋渡しに焦点を当てたケーススタディのワークショップ・研修を開催 ⑤ 日本も含めたアジア太平洋地域の標準化人材育成のためのワークショップ・研修を開催 ⑥ 過去のパイロットプロジェクトサイトでの異業種間データを共有するプラットフォームを維持管理(マレーシアと連携)、新IoTシステム検討				
関連する専門委員会または外部組織とそ の内容	- 関連専門委員会:新規プロジェクトの内容により、個別に相談 - 外部組織: APT、マレーシアMTSFB、タイNBTC、SHAREメンバー --- 標準化提案・プロジェクト・ワークショップ・アイデアソンの検討・実施				
主な活動項目	概況指標	2025年度目標(当初計画時)	2025年度実施状況	記事	
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	1件 ・ASTAP EG BSG(2025年4月予定) - ICTソリューションハンドブック改定提案(マレーシアのケース追加)			
	外部会合への 参加・連携状況	① アイデアソン開催検討: 2回 ②-1. APTプロジェクト「マレーシアの医療プロジェクト第2段階」参画 ②-2. 新APTプロジェクト提案の検討 ③. ASTAP: 1回 (2024年5月予定) ④⑤. 研修またはワークショップ: 2回 ①～⑥. SHAREミーティング: 1回		項番は、重点 取組の番号 を示す	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件			
	TS/TR/SR	0件 / 0件 / 0件			
③ ダウンストリーム	数	TS制定: 0件 TR制定: 0件	TS制定 TR制定:		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	・TTCセミナー 1回			
	記事投稿、講演会	・TTCレポート記事: イベント毎に報告			